

74新破天荒



令和四年度版
創刊
第15号

一学年終了

姫路南高校生としての一年が終わります。皆さんにとって、どんな高校生活の一年でしたか？

「充実」

「妥協」

「悩み」

「迷走」

「無」

なごなご……。

私の高校生活は、「知らずを知る」からのスタートでした。忘れもしない、一学期中間調査最初の科目「現代社会」の試験調べを通学の電車内で行っていたとき、私は教科書で、他の生徒は資料集で。その時、初めて「教科書の話」から深い部分の学習を求められる学校だということを知り知らされました。結果は、「4.2点」。

「井の中の蛙」を思い知りました。それがあったからこそ、「大海を知らず」ではなく、「大海を知る」発想を持つことができて今があると思います。

ただ、当時の心境は正直「この先どうしよう」であつたけれども、お陰で「負けん気」に火をつけてもらえたと思います。

結果、一年生は上を見て暮らす毎日を過ごすことができました。定期調査で「未知・未熟」を知り、復習の機会をもらって模擬試験に臨む、そのスタイルを貫きました。

失敗から学ぶ

それは、人生の先々まで失敗と呼ばれるものではない。そんな経験をさせてもらうことができた、「私」の高校一年生でした。

さて、皆さんも

「易きに流れず」

自分と向き合い、悩みながら自らを磨く第二学年となるように、春休みにはしっかりと充電をしておいてください。

令和五年度 大学入学者選抜について

本日(三月二十三日)を以て、国立大学後期選抜受験結果発表も終了です。つまり、本日がある意味、

令和五年度進学に向けての

闘い

が、一区切りをつける日と言えます。ここまで、姫路南高校生となつてから

365日×3年＝8日
(閏年を含めば＋1日)
そのうち
3月12日～2月25日

ここに書かれている数が何の数なのかを、七十四回生の皆さんには、この先も事ある毎に時間をかけ、

訴えていきたいと思えます。

自分の可能性を、高校三年で一つの終わりにしては勿体ない。

我々教師は、その点では皆さん・保護者の皆さんより多大な経験値を持ちます。皆さんの可能性の広げ方を訴えることができます。残念ながら、その思いが、どうすれば間違いなく皆さんに伝わるかは、教師として永遠のテーマでもあります。

今回、本通信の後半部分でその経験値を少しだけ、紹介します。

信じよう 自分の可能性

二年時でも、皆さんと縁があることを祈って、三学期終業式という日を終えます。

二学年四月の予定

十日(月) 始業式(時間に遅れないこと)

(注)・新クラス新番号はメモ等して覚えておく
・入室は旧クラスのメンバーで

・入る教室は、旧一年一組は二年一組教室
旧一年五組は二年五組に入室

・当日の日程詳細は当日に連絡をします
十一日(火) 新入生との対面式
課題調査等

(注)・新学期当初は連絡事項がたくさんあります。身体面、精神面ともに整えて、欠席がないように心がけること

・春休み中、クラスルームを通じた連絡もあり得ます。こまめにチェックをすること。



第十四号で予告した通り、本校の男子空手道部が団体組手の部で「ゆめ希望杯」で、春の全国選抜大会に選出されました。一年生も参加します。

こういった形で、それらの経験を自分に生かしてくれるか、今後を楽しみにしたいと思います。

「全国選抜で

自分の何を試すのか 何を見てくるか」

この度の全国選抜では、これまでの一年間の練習で身につけてきた技や、試合などを経て習得をした動きが、全国というレベルの相手に通用するのか、ポイントはしっかり取れるのかということを試してきましたと思っています。

大会には名の知れた強豪校があり、試合でどんな相手と当たるかも分からないという状況ですが、どんな相手でも、圧をかけられるよりも、しっかりと自分から圧をかけていくことを意識し、自分から動いて相手がやりにくいような展開に持って行けるようにしたいと思います。

また、そんな多くの強豪選手が、どのタイミングで、どんな動きを、どう判断して技を出しているのかや、そういった人たちが技をよく決めているのはどんな技なのかということをしつかり学び、今後の自分に繋げていきたいと思えます。

突然訪れたこのチャンスを無駄にせず、最初から最後まで自分のベストを尽くした競技をしてきます。

(三組 中水 龍也)

今回、全国選抜に出場することが決まったとき、嬉しさや不安が今だにあります。勿論、嬉しさがほとんどですが、選ばれたことに対する困惑と、どの相手に対しても、正直厳しい試合になるといふ不安があります。

ですが、選ばれたからには「やるしかない」です。自分の技がどれだけ通用するのが大事だと思っています。

「試合」というのは、文字通り「試し合い」をすることですから、勝ち負けにこだわらず様々なことを試したいと思っています。

もしかしたら、技を試す暇もないくらい、レベルに差があるかもしれません。それに屈しないようにしっかりと練習に励みたいですね。

全国大会という舞台に立つにあたって、家族にはお金のことや準備のことなどいろいろと支えてもらい、感謝するばかりです。そういったことをしっかりと頭に置き、まずは自分が納得できる試合にしていきたいと思っています。

(三組 船田 勇志)

散歩道 74 クラスコード 5luczkw
 Start 23 → 2022 last 36
 2023 start 38 → Now 52

また、吹奏楽部でもアルトサククス演奏で関西大会出場を果たした生徒がいます。すでに、関西大会も終了しているのですが、その経験について紹介させていただきます。

「心がけた演奏」

一月二十九日。私は、第三十七回管打楽器ソロコンテスト西播大会に出場しました。これまで個人でのコンクールは出場したことがなく、自分の実力がどれくらいなのかも知りたかった為、出場してみようと思いました。

そんな軽い気持ちで出場を決めたのが秋頃。本当はすぐに練習を始めたかったのですが、演奏会などが忙しくほぼ練習できず、本格的に練習を始めたのが一月。本番まであと二十日ほどしかなく、正直、出場を辞退しようかとも思いました。しかし、この二十日間で、技術面は変えられなくとも表現力を極めたらいいのではないかと。曲にあった感情表現をする事で相手に何か自分の思いが伝わるんじゃないか。

そう思い、曲に感情移入して練習し、ついに本番を迎えました。落ち着こうとしたにも関わらず、緊張で記憶が飛んでしまい、自分がどんな演奏をしたのかわからないまま、出番は終わっていました。

しかし、結果を見ると、関西大会出場者の欄になぜか、自分の名前があったのです。表現がよかった、と審査員全員から評価を頂き、それが功を奏して関西大会へ出場できたのです。

身に染みついたものは、どんな状況でも自然と表現できるのだと感じました。

二月二十六日、第二十七回管打楽器ソロコンテスト関西大会。西播大会とは比にならない、レベルの高さの演奏ばかりで圧倒されました。しかし、私は私なりに自分の届けたい音楽を表現しようと思いい、曲にあった雰囲気を出せるように演奏しました。

結果は銀賞でしたが、自分なりの「音楽」を届け

ることはできたと思います。

今回の経験で感じたのは、表現力の大切さです。関西大会でも、技術面だけでなく表現にも特化した人がやはり結果も伴っていたし、記憶に残る演奏が多かったように感じます。

たくさんの方が聞き入ってくれるような演奏ができるよう、これからは他のコンクールにも挑戦してさらに高みを目指して頑張ります。

(二組 保田 果凜)

因みに、吹奏楽部からの連絡です。

三月二十六日(日) 一三時開演 定期演奏会

於たつの市総合文化会館アクトホール

加えて、演劇部および放送部が、網干消防署より「春の火災予防運動」啓発動画の作成に携わったこと、感謝状をいただきました。

それぞれの場面で、自分たちが活躍できる場面が皆さんにはたくさんあります。ただ何となく過ぎていく日々ではなく、自分の可能性を引き出してみてはどうですか。

結果ではなく、結果を求める姿を期待したいと思います。

球技大会
印刷は写りが悪かったので
本校HPにてご覧くださる
こと

三月七日火曜日、一学期とは違い好天の下で、球技大会が開催されました。学年末考査明けというだけでなく、一年の最後に、新しい学年へのステップのために、しっかりリフレッシュしようとする姿が見えたのかもしれない。
一学年の成績は次の通りです。

女子キックベースボール

優勝 一年五組

準優勝 一年四組

男子ミニサッカー

三位 一年四組A

わずかですが、楽しんでいる様子を掲載します。通信の印刷では見辛いです。

本校HPにカラー掲載するので、そちらでも確認してください。



女子キックベース



女子バレーボール



男子ミニサッカー

今月の ○○○○の 勧め

| | |
|------|---------|
| 五月 | 「無駄」 |
| 六月 | 「諦めない」 |
| 七月 | 「捨てる」 |
| 一学期末 | 「チャレンジ」 |
| 九月 | 「さかのぼる」 |
| 十月 | 「テレビ」 |
| 十一月 | 「大空間」 |
| 十二月 | 「無」 |
| 二学期末 | 「こだわり」 |
| 一月 | 「信念」 |
| 二月 | 「探る」 |
| 三月 | 「自制する」 |
| 一年最終 | 「勇気を探す」 |

今号で前述したように、ここでは国公立大学後期受験合格者が私にくれた勇気を紹介します。

なぜ国公立なのか。なぜ後期受験まで受験完了の時期を考えさせるのか。

皆さんとの受験までの付き合いがまだ二年ある中で、何度でも伝えていきたいと思えます。

高校後の進路先決定は 人生のゴールではない

人生において、ゴールを経験した人は七十四回生の皆さん、いま皆さんを取り巻く家族達、我々教師、地域の人々、誰をとってもおりません。生きています。限り。

その人生を「よりよく生きる」ことが、「よりよく生きた」と思える、思われることになるのだと、私達は感じ、経験しているはず。

なので、私達教師は日々皆さんを「よりよく鍛えてくれる」環境で学ばせる方法を助言、進言をします。勿論、二百人いれば最大二百通りの考えがあり、周囲を含めればさらにもっと多くの考え方はあります。ならば、何が一番皆さんの琴線にくすぐるか。それは経験則や、目の前に起こっている、起こってきた事実です。

七十四回生に限らず、姫路南高校の皆さんと、この一年、三学年と時間を共有させてもらう中で、皆さんの「与えられた」ことに対する忠実さや誠実さは恐ろしいくらい素晴らしい。

一方で、皆の前で自分の思いを表現、相手の人に自分自身を売り込むアピール力（厚かましき）は、その反対に、残念ながら人の影に隠れてしまい、その波に飲み込まれていくのが現状です。

ならば、相手にいかに多く視界に入れてもらう機会をもつか。そうなれば、大講堂にいる大多数のうちの一人ではなく、少数で何度も講義の中で声をかけてもらえる環境の方が、自分を磨くことがよりできると思えます。

今回は、この辺りを春休みの間に少し考えてみてもらえませんか。正解がない問答かもしれませんが。

以下は、経験則に基づく事実です。

北見工業大学工学部

(大阪会場受験)

大学入試センター試験は950点中約430点程。前期はあえなく沈没、というより合格可能性ほぼ零。センター得点対後期得点4対5の約500点に人生をかけた結果、見事合格。寒くない、痛い北見の充実した四年間を満喫し、四年後は何と「世界のトヨタ」の開発部へ。

名だたる旧七帝大、難関私立卒の大学院生たちに採られながらも、約十年後には開発部のリーダーとして、そしてこの春からは開発チームのメンバーを強固にしていく会社の顔（リクルーター）として、新たな人材発掘の役目を担うそうです。(35歳)

鳥取大学教育学部

兵庫教育大学以外を受験しないと、聞く耳を持たない生徒。「前期は希望通り受験をしたらよい、後期は可能性を生かせ」という言葉が、センター試験の結果に引きずられて、出願締切前日まで耳に届かず。敵も然る者。時間切れ付近では先生も諦めるだろうと、出願前日に電話をしてみました。話すこと、電話で二時間強。「兵庫教育でならない理由は？先生になりたいが一番やな？」こんなやりとりの中、その後、学校へ募集要項を取りに来て諸々の手続き準備、近くの大きな郵便局で発送を確認して、帰宅をさせました。

すったもんだした割には合格。会う度に大学での楽しくて仕方がない話ばかり。あれだけごねたのは何だったのか。教員採用試験は、兵庫県小学校で一発合格。さらに、挙げ句の果てには(言葉は不適切か)、大学時代の同級生を将来の伴侶とし、ともに一月末から欧州ドイツにパートナーの仕事の関係で移り住みました。(30歳)

関西学院大学社会学部

男子400mで全国総体出場。センター試験8割弱で、前期は絶対神戸大学受験を。後期は広島大学を必ず受験する約束で勝負をしました。

前期は残念ながら不合格。後期も判定は厳しく、浪人も辞さずであったが、見事逆転合格。ここで、話は終わるはずだったが、複数を手に入れたときに、自分の本当の思いが湧き出て、自分の考えを具体的に保護者にも主張。

結果、進学先は関西学院大学社会学部。何がしたかったか？インターハイで果たせなかった陸上競技での活躍でした。

手にしたものに対して、私達教師は「良かれ」は言えても、「だめだ」を言う権利はありません。残念ながら、競技では大学時代良い戦績は得られませんでした。が、就職は文系ながら、なぜか志望通りのSE(システムエンジニア)と破天荒。

どこまでも、自分のしたいことを表現し、実現し続ける生徒です。(30歳)

もちろん、すべてが成功例となるわけではありません。ただ、自分に与えられた機会を生かす努力をすることが、次のステップでやり甲斐を持った環境を手にできたのだと。あくまでも、経験則での意見ですが。

二学年に向けて。

「意味がない」のではなく「意味を与えていない」ことで不平を言っていることを知ろう。

「本当にしたい」ことは「本当にしたい」覚悟ができたときに本物になります。

さて、次はどんな一年になるのやら。四月十日を楽しみにしています。いないときはごめんね。